

国立大学が置かれた状況と山形大学の挑戦

平成21年6月9日

山形大学長 結城章夫

1. 日本の大学をめぐる全般的な状況
2. 国立大学の法人化とその後
 - (1) 法人化の制度設計の考え方
 - (2) 法人化後の全国の国立大学の動き
 - (3) 大学の機能別分化と「国立大学システム」の最適化
3. 山形大学の経営方針
 - (1) 2つの基本方針（学生が主役、教育を充実）の設定
 - (2) 「結城プラン」の策定による1年ごとのPDCAサイクルの確立
 - (3) 分散キャンパスのメリット化と各キャンパスの経営力の強化
4. 具体的な経営改革
 - (1) 意志決定のスピードアップと事務手続の簡素化
 - (2) 学内諸会議の整理・統合
 - (3) 事務職員の選考採用の拡大とプロパー職員集団の育成
5. 手厚い「学生支援」に向けて
 - (1) YUサポーティング・システムの充実
 - (2) アドミニストレーティブ・アシスタント（AA）制度の創設
 - (3) 就職支援の強化
6. 「教育」の充実に向けて
 - (1) 「教養教育」から「基盤教育」へ
 - (2) 「学士課程教育」としての一貫性・統一性の確保